

現職市長 これまで4年間の主な取り組み

【市民の生命財産を守る取り組み】

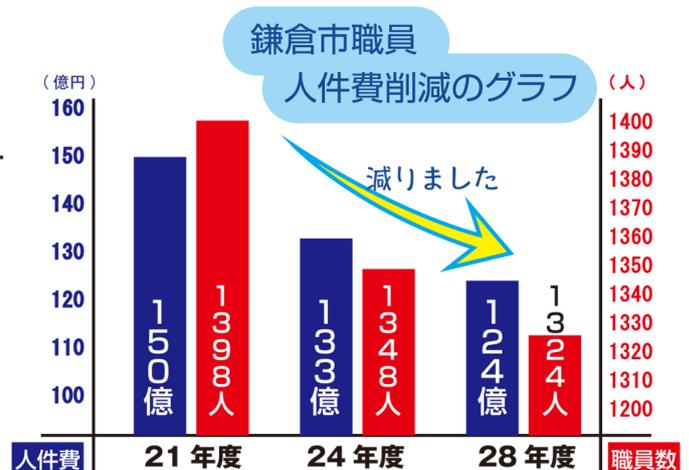
- 自分が住んでいる地域は、どの様な災害リスクがあるのかを知っていただくため「地区別危険箇所マップ」を作成し、全戸配布。
- 津波シミュレーション動画の作成。
- オレンジフラッグの普及啓発。
- 津波避難路の整備、誘導標識等の整備、津波避難ビル新規指定、津波避難施設の機能をもった施設として腰越消防署え、海近くにある保育園2園を統合して、新たに由比ガ浜子どもセンターを建設。



- ゴールデンウィークにおける江ノ電の混雑に対応するため、市民優先乗車の社会実験を実施。今後、本格実施を目指す。
- 観光案内板の新設を目的として、「クラウドファンディング」を活用して寄附金の募集を行った。
- 砂浜での飲酒や入れ墨の露出を規制して、海水浴場の健全化に取り組む。
- 市内の防犯灯14,512灯のLED化を実施。
- AEDのコンビニ配備。
- 危険ブロック塀の補助。

【行財政改革】

- 新たな人事・給与制度の導入、特殊勤務手当などの諸手当の見直し等により人件費の圧縮。(年間約3億5千万円の財政効果)
- ごみ収集業務・道路補修等業務の委託化の他、民間力の活用に取り組む。(平成23～26年度までの4年間で約11億8千万円の財政効果)



- 債権管理課を創設し、未収債権の管理・徴収の取組みを強化。(平成27年度4億1,800万円、平成28年度2億7,900万円の財政効果)

【子育て・教育】

- 幼稚園に通う第2子以降の幼稚園保育料を実質無償化。
- 小・中学校への特別支援学級全校設置に向けた整備。
- 中学校給食の開始(今年の11月から)。
- 小児医療費無償化の中学3年生までの拡大。
- 小・中学校への冷房設備設置。
- 情緒通級指導教室を開設。
- 病児保育の開始。
- 保育園等の受け入れ数を295人増。(平成26年4月2,076人
⇒平成29年4月2,371人)



- 「鎌倉市いじめ問題対策連絡協議会」及び「鎌倉市いじめに関する調査委員会」を設置。
- 発達に課題のある子どもたちを、地域の中で健やかに成長することを支援するため、発達支援の情報共有と支援技術の向上を目指して、サポーター養成講座を体系的に開催。
- 休日夜間急患診療所にて、ゴールデンウィーク及び年末年始に、小児科医を配置し二科体制による診療を実施。



- 「かまくら子育て支援グループ懇談会」と協働で野村総合研究所跡地や山崎浄化センター等を活用した「一日冒険遊び場」を月1回程度開催している。今後は、「一日冒険遊び場」の常設化を目指していく。
- 子どもから大人までが、鎌倉の歴史と文化を学び、体験し、交流できる場として鎌倉歴史文化交流館を開館。(土地と建物の一部、さらに現金15億円を寄付していただく)

- 小中学校において、火災、不審者進入、地震・津波、風水害等を想定した避難訓練を実施。
- 鎌倉市ジュニアスポーツ栄誉表彰、鎌倉市ゆめひかる文化芸術子ども表彰を創設。
- 西鎌倉子どもの家、岩瀬(今泉)子どもの家を学校施設内に整備。
- 保育サービスに関する相談を受ける『保育コンサルジュ』を配置。
- 「鎌倉市内小学生のための狂言鑑賞&体験教室」を引き続き実施。
- 特定不妊・不育症治療費を新たに助成。



- 夏休み親子鎌倉彫体験教室を実施。
- 妊産婦健康診査費用補助を増額。
- 小中学校のトイレ改修。

鎌倉市長選挙 法定ビラ第1号
団体名

青年市長と笑顔あふれる鎌倉をつくる会

共に歩む。
全てを懸けて、